

書評 飯島朋子著『映画の中の本屋と
図書館 後篇』（日本図書刊行会発行、
近代文芸社発売、2006. 4）

市村省二

著者は、一橋大学附属図書館に勤務されている現役の図書館司書（大図研会員でもある）で、ブロンテ姉妹の書誌や「図書館映画」（注：図書館や図書館員が登場する映画のこと。評者の造語）に関する一連の著作など、書誌・目録関係の業績でよく知られている方である。

本書は、2004年に刊行された同タイトルの著作の「後篇」にあたるもので、図書館や本・本屋が登場する劇映画（一部ドキュメンタリー・実験映画を含む）について、その後の新しい作品や前篇では取り上げなかった古い年代の作品が収録対象となっている。本書に収録されている作品の多くは、同じ著者による『図書館映画と映画文献』（2001年）の第一部の文章を書き直したものであるという。

収録点数は、前篇約260点、後篇約270点で、重複を除くと、前・後篇合わせて400点近い作品が取り上げられている。これは、米、伊など海外で発表されている類似のリストと比べても遜色のない規模の点数である。何より驚嘆させられるのは、紹介しているほとんどの作品を著者自身が実際にビデオ・DVD等で確認していることであり、確認作業だけでも相当の労力を要したであろうことは想像に難くない。おそらく、著者および本書の最大の貢献はその点にあるのではないか。

構成について、「天国の図書館」「東京の古本屋」「本を読む人」など、テーマごとに章立てをして、各章ごとにメインとなる作品を紹介し、関連する作品に言及し、更に関連文献を列挙している点は前篇と同様である。取り上げられている作品は『天国の本屋・恋火』『デイ・アフター・トゥモロー』といった最近の作品から『心の青空』『若い人』といった戦前の作品にまで及んでいる（ちなみに、本

書で紹介されているもっとも古い作品は、ヒッチコックの初期のサスペンス『恐喝（ゆすり）』（1929年・英）で、終盤の追っかけシーンの中に大英博物館・円形閲覧室が登場する）。

同じテーマに関心を持つ者として、以下、いくつか気になった点を列記しておく。

- (1) 前著には部編名の表示がなく、今回のタイトルを見て、それが「前篇」であったことを知った。本書を後篇と位置づけるのなら、章番号は前・後篇通しとし、索引も前・後篇の合体版にしてほしかった。
- (2) 設定したテーマごとに関連する作品を記述する構成は面白いが、個々の作品の記述が断片的過ぎて、テーマを考察するうえで深みに欠ける印象は拭えない。章立てにも工夫がほしかった（50も章がある本というのも珍しいのではないか）。
- (3) 図書館映画の白眉とされる『コンピュータとミス・ワトソン』（1957年・米）が未見となっているのが惜しまれる（ちなみに、同作品は『デスク・セット』という別邦題で昨年DVD化されている）。
- (4) 多くの読者は、「どうやってこれだけの作品を調べたのか」という点に興味を持つと思われるが、情報の探索過程について言及がないのは誠に残念である（情報源として「図書館映画メーリングリスト」をあげているが、これの説明は何もない）。そうした情報を提供することは、映像メディアの組織化や主題探索のあり方を考えるうえで有用であり、図書館司書の本領を示すことにもなるであろう。
- (5) 図書館映画に関連する情報はWeb上にも多数存在する（評者の「図書館映画データベース」(<http://www.libcinema.com/>)もその一つである）が、その点についてはまったく紹介がない。むしろ意図的に排除しているようにも見えるが、この点についての著者の見解を伺いたいものである（紙に固定された情報こそが実在す

るもので、ネット上の情報は存在を認めないということであろうか?)

- (6) 巻末の「文献掲載図書一覧」には、取り上げた映画に関する記事が掲載されているものだけでなく、映画関係の新刊図書も含めたところがあるが、意図が不明である。

本書の目的について著者は、“...メディアの中の図書館イメージを分析し、「図書館はどう見られてきたか」を検討するための材料として、『映画の中の本屋と図書館』を作った(「まえがき」より)と記している。本書の目的は「読ませる」「考えさせる」ことより「記録する」ことであり、図書館の社会的イメージ等

を研究する人のための「データブック」としてとらえ、活用されるのが適当であろう。

かなり厳しいコメントも書かせていただいたが、情報の記録化に徹底的にこだわり、「図書館映画」の存在を広く一般に知らせたという点で、本書の意義はいささかも薄れるものではないことを最後に強調しておきたい。

(いちむら・しょうじ／和光大学情報センター) E-mail: ichimura@wako.ac.jp

大学の図書館 Vol.25, No.7, p.128-129(2006.7)より転載。